




## 【貸館における感染防止の具体策★リスク評価】

全国公立文化施設協会のガイドラインを参考に以下示します。

## ■接触感染リスクと対応策(抜粋、館内の清掃除菌一覧表は別表)

他者と共有する物品やドアノブ等の不特定多数が触れる場所を特定し、接触頻度を評価。

施設		頻度 (リスク評価)	対応策	備考
共有スペース	南北玄関	普通	手指消毒剤の設置(会館)	
	手すり、ドアノブ、 EVスイッチ等	高い	数時間おきに消毒(清掃職員)	「蓋を閉めて流す」張紙 待ち列の足元表示
	トイレ 各施設トイレ含む			
	テーブル、椅子等	普通		
大小ホール	入場口	高い	手指消毒剤の設置(主催者) もぎり簡略化、段階的入場の提案	主催にも可能な限りとして 消毒の協力を要請
	ロビー		使用前後にひじ掛け等消毒 (清掃職員)	
	客席			
	楽屋口、楽屋内 テーブル、椅子、 		マスクと手袋着用を要請 サンプル品の中止	
	物販			
大ホール	当日券窓口	アクリル板の設置有り 手袋着用を要請		
会議室	机、椅子、 	普通	使用前後に消毒(清掃職員)	
	ホワイトボードのペン 等			
ギャラリー	受付机、椅子等	高い	使用前後に消毒(清掃職員)	
	控室机、椅子、 			
	倉庫備品ワイヤー、 フック、等		主催に軍手着用を要請	

## ■飛沫感染リスクと対応策

施設における換気の状態を考慮しつつ、人と人との距離や位置、方向、施設内で大声での対話等が頻発する場所等の状況を評価。

施設		頻度 (リスク評価)	対応策	備考
共有スペース	ロビー	普通	間隔を空けて座る様 注意の張り紙	空調設備による換気に加え、 主催によるドア開放や、 施設によっては窓開放をし、 定期的に換気を要請
	トイレ	高い	待ち列の間隔を空ける誘導	
大小ホール	ロビー もぎり、物販		待ち列の間隔を空ける誘導 スタッフはマスクと手袋着用要請 もぎり簡略化の提案	
	客席		隣り合わせ✕、前後✕ (収容率50%の場合)	
楽屋				
会議室	各部屋	普通	密を避ける	
ギャラリー	展示室、ロビー			

## ■集客施設としてのリスク評価と対応策

開催にあたって、大規模な人数の移動が見込まれるか、県域を越えた移動が見込まれるか、施設内での入退場が長時間滞留せず人と人との距離が一定程度確保できるかどうか等、これまでの来場実績等に鑑み評価。

基準	<p>5/25政府の緊急事態宣言解除に伴う「感染症対策の基本方針」により</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップ①5/25～「県をまたいだ不要不急の移動については、引き続き控えて」</li> <li>・ステップ②6/1～「一部首都圏、北海道との間の不要不急の県をまたぐ移動は慎重に」 ⇒自粛の協力を要請(強制ではない)</li> <li>・ステップ③6/19～「段階的緩和」 ⇒9/19～ 歓声や声援が無い場合の収容率100%、歓声が想定される場合の収容率50%</li> </ul>
リスク評価	<p>高い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大ホールのコンサート等催物が開催される場合、近県や関東から多くの来場者が予想される。</li> <li>・催しの種類によっては収容率100%や1,000名以上の催しが実施可能。</li> </ul>
対応策 (主催者へ 協力要請)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟県防災局危機対策課が設置する事前相談との連携</li> <li>・リスクへの対応が整わない場合は、速やかに中止又は延期等の慎重な対応をお願いする。</li> </ul> <p>・別紙「主催者様へ、感染防止の具体策(ホール版)・(ギャラリー版)」も参照ください。</p>

## ■地域における感染状況のリスク評価と対応策

地域の生活圏において、地域の感染者の状況を踏まえた施設管理への影響を評価。

基準	<p>5/25政府の通知「移行期間における都道府県の対応」より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい生活様式」の定着等を前提として一定の移行期間を設け、制限緩和</li> <li>⇒9/19～ 歓声や声援が無い場合の収容率100%、歓声が想定される場合の収容率50%</li> </ul>
リスク評価	新潟県「警戒」発令中！感染防止対策の徹底！（令和2年12月現在）
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・症状の無い感染者や、今後の感染状況の変化に備えて、主幹の新潟県と情報共有し、休館中も継続的に感染予防対策をとる必要がある</li> </ul>